

での入院、手術。家内の尿路結石による入院、手術。子供たちのコロナ倒産による失職。その他こまごまとした身上。事情が津波のように押し寄せてきました。そして、その後にやってきたのが、長男昇一の精巣癌再発による入院。わずか1年で起きてきました。

その災難を一つひとつ振り払ってきましたが、その後にやってきた昨年9月に発覚した長男の癌の身上。これは越える壁が高く、越えるに越えられない日々が続きました。

長男は、5年前に発症した精巣癌の再発、転移により、胃と背骨の間のリンパに26センチの癌ができ胃袋を押し上げ、背骨の骨の中、鎖骨付近や顎のリンパ節、他にもあちこちに転移している、ステージ4の癌と分かりました。

担当医のお医者さんにも、こんなすごい大きさの癌は初めてだと言われ、難しい癌であるとの話でしたが、精巣癌は、抗癌剤が効きやすい癌なので、そこに希望をもっていました。そう、そこに希望をもっていました。希望を持ちました。そう、希望を持ちました。頼りない、言い方

でした。

本人は、生命の危機を宣告された割には、意外とひょうひょうとしていまして、今どきの若者というのか、フェイスクなどのSNSに自分が身上であるとアップして、友達に現状を披露しているぐらいで、死さえも覚悟しなげればならないはずなのに、どういう神経なのか、理解しがたい状況でした。

しかし、その反応はというと、大教会長様・奥様、教友の皆様の励ましのお言葉を始め、網昇の教会の近所の方々の励ましの声から、心配した同級生が、教祖のお下がりのはったい粉を送ってくれたり、千羽鶴を折って送ってくれたり、めずらしい野菜や果物の差し入れ、中には、癌患者にカップ麺を箱入りで差し入れてくれたり、コロナで面会が難しい中をぬって、おさづけに通って下さったり、役員の子供たちが親身になって協力してくれたり、多くの方々が心を寄せて下さり、お願い勤めをして下さったりと、大勢を巻き込んでいったのです。さて、その本人はどうなっ

たのか、抗癌剤の副作用にも負けず、大した痩せもせず、カップ麺をたいらげて、先生から癌よりも生活習慣病、成人病の方を気にして下さい、と言われるほど、癌患者らしからぬ体形で12月初めに一時退院させて頂く御守護を頂きました。今年2月、転移して

いました癌細胞はほぼ死滅していましたが、ダメ押しの抗癌剤のために入院しまして、お陰様で、先日、それも退院させて頂く御守護を頂きました。長男の身上を通して感じたことですが、親神様・教祖の御守護は言うに及ばず、一つは、多くの方々に心を寄せて頂いたこと。もう一つは、霊様のお徳のお陰があったことに気づきました。

長男が入院中の昨年、11月29日、母・瀬川多津恵の5年祭が網陰分教会でつとめられ、祭儀を始めようとする1時間ほど前に、長男本人からの連絡で、先ほど、担当医から、あの26センチの大きなガンは2センチまで小さくなり、12月初旬に退院するとの嬉しい知らせでありました。入院中に途中経過は知らざられなかつたので、それまで、毎日

毎日、どうなっているのか、御守護頂いているのかどうなのか、心配な日々だっただけに、予想を超える御守護に信じられない知らせであったのです。ふと、我に返った時、この母の年祭開始1時間前に年祭をつとめる参拝場で知ったこと。更にまた、思い返してみますと、この身上の知らせを初めて本人から聞いた「疑わしいので今日、精密検査を受ける」と電話して来た日が昨年の9月2日、何と、私の父瀬川巖の命日であったことに気づきました。

親神様・教祖から教えて頂きました。父や母、祖父母、網昇前会長の霊様が、生前お通り下されたお徳は、末代につながっている。自分一人で成長し、日々当たり前に通っているように思っています。積み上げられた霊様のお徳の上に乗って、今があることを改めてお教え下さいました。

信仰の初代は、なぜこのお道を信仰しはじめ、続けて来たのだろうか、しばしば考える機会がありました。ご苦労の道中だったと思います。今、通っている我々が、自分勝手な適当な通り方をしてい

ては、「子や孫たちの時代には必ず、もつと結構な姿をみさせて頂ける」と信じて苦勞して通ってくれた先人に申し訳ないと感じたのです。

信仰はすばらしいです。信仰がなかったなら、家族が身上になっても、ただ、お医者さんに頼って、平癒を待つだけしか方法はありません。ですが、我々信仰者は、身上事情は神様のお知らせと知っています。心の立替え、家族一手一つとなり、神様に願うおつとめが、御守護頂ける方法であると、知っているのです。

癌の身上は有難い、交通事故故で即死となったら、懺悔する間も心の準備もできませんが、癌と知ってからは、どうしたら御守護頂けるのか、どういう心定めをすればよいのか、家族が一手一つ心を揃えて進ませて頂ける。そして、完治しても、定期的に検診をして、異常がないかと、5年10年と身上を忘れないように通らせて頂ける。すつきり御守護頂いて、心配することがなくなつては、心定めたことは忘れてしまう。これこそ、教祖逸話篇にもある「本当のたすかり」というのではない